

令和6年度 江戸川区立西一之江学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	よく考えすすんで学ぶ子 思いやりのある子 ねばり強くたくましい子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	子供たちが、「今日は一日楽しかった。また、明日が楽しみだ。」と思える学校。 教職員も子供たちと共に学び、自らも成長していける学校。 ・明るい学校 ・楽しい学校 ・魅力ある学校
前年度までの本校の現状	成果 ・学校行事を工夫して行うことができた。 ・一人一台端末を取り入れた授業を取り入れた。	課題 ・一人一台端末のより効果的な活用方法を考えていく必要がある。 ・学力（主に算数）の底上げを図る必要がある。	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己（学校）評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎	・ファシリテーションの意識を高め、主体的な学習をお定着させる授業の展開	・定着度調査でAB層50%	B		B	・7月の定着度調査の結果はA層31.5%、B層41%となった。ただし、4月の調査に比べ、B・C層の割合が増えてしまっているため、既習事項の復習にも力を入れていく必要がある。	B	・診断テストの結果による。					
	・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・江戸川っ子study weekの取り組み内容を学校と家庭で共有 ・3年生での辞書引き学習の実施	・全ての児童がドリルパークを実施 ・3年生全員が国語辞典の引き方を習得	A		A	・江戸川っ子study weekが4月当初に設定されていたため、その後取り組みやすかった。 ・3年生の辞書引きについては、主体的に調べる児童の姿が見られた。	A	・3年生全員の国語辞書の引き方習得による。 ・タブレットが普及したが、辞書引き学習の大切さも学び続けてほしい。					・取り組み状況を家庭と共有するのが上手いか、家庭との共有方法を全体で確認する必要がある。
	○読書科の更なる充実	・読書科における探求的な学習の充実 ・図書室整美活動の実施 ・読み聞かせや図書委員会による活動の実施 ・朝読書の実施	・自ら課題を見出し、図鑑や資料を使って探求する活動を年3回以上実施 ・週1回の朝読書の実施による読書意欲の向上	A		A	・読書科における探求的な学習は全校で行っている。朝読書だけでなく、保護者による読み聞かせや高学年児童が下学年の教室に読み聞かせに行く活動を行っており、読書意欲の向上につながっている。	A	・読み聞かせを、「本は友だち隊」「上級生」等、頻繁に実施している。 ・図書室の整備、工夫した模様替え等も実施され、読書意欲の向上を図っている。 ・読書の機会を増やしてほしい。					
体力の向上	・運動意欲の向上や健康の推進に向けた取組の実施・改善・充実	・朝の時間を活用しての「元気タイム」の実施 ・「体カテストがんばろう月間」の実施	・体カテスト全種目において、昨年度の記録を上回る	B		B	・元気タイムを実施することで、運動の機会を増やすことができている。 ・体カテストががんばろう月間で、体カテストの練習ができ、記録の向上につながった。	A	・運動会において、練習もきめ細かく実施され、また「元気タイム」を設ける等、運動意欲の向上を図っており、体力向上が見込まれる。 ・即会で夏休みラジオ体操は実施した。子供は体を動かすことは好き。					
	・運動習慣の定着化	・江戸川っ子なわとびweekにおける業間運動の実施	・なわ跳びを楽しんで実施する児童80%以上	B		B	・学年ごとに江戸川っ子なわとびweekでなわ跳びを実施したが、楽しんで実施しているかどうかは見取りづらかった。 ・なわとびweek後になわとびをする児童はあまり見られなかった。運動習慣の定着化にはあまり効果がないと感じる。	B	・より多くの運動に取り組みできるようにしていくと良い。					
実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・特別支援教育や特別支援教室について、巡回指導教員、SC、心理士などによる研修会の実施	・特別支援教育の十分な理解 ・特別支援体制の充実	A		A	・巡回相談心理士による研修会を開催し、特別支援教育についての理解を図ることができた。 ・特別支援校内委員会を月に1回実施し、2学年ごとに深い情報交換ができていく。	A	・「さくらルーム」の設置及び特別支援教育の広報も実施されており、理解向上を図っている。 ・学校生活の中で、お互いを認め合い、助け合い意識が身に付いている。 ・一人一人の個性を大切に。					
不登校・いじめ対策	・不登校対策の実施・充実	・いじめアンケートの実施	・毎月第4週に「人権週間」として取り組む	A		A	・毎月4週目に、様々な取り組みをしている。学期末にいじめアンケートも実施した。	A	・子供たちの表情も良く、特にいじめについての情報もない。					
	・教育相談の強化	・なかよしポストの設置	・一人一人の声に耳を傾けることによるいじめ・不登校の未然防止	B		B	・なかよしポストの周知を行った。	A	・「いじめ」「不登校」についての未然防止に向けた取り組みを十分に行っている。					

心の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>• hyper-QUの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• hyper-QUやアンケートの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学級満足度80%以上</li> </ul>	B		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>• hyper-QUの結果を受けての研修会を実施した。結果を受けて今後の学級経営につなげる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>• タブレットの普及により新たな問題も出てきていることですがしっかりケアできている。</li> </ul>							
学校(園)の地域社会に開かれたの実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学校ホームページの充実等</li> <li>• 学校公開の実施・充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 実施状況を分かりやすくするため、取組の状況を学校ホームページに掲載</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全項目でのB評価以上</li> </ul>	A		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 行事や学校の取組みをホームページに掲載している。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学校ホームページに遅延なく情報が掲載されている。</li> </ul>							
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 実施状況を分かりやすくするため、取組の状況を学校ホームページに掲載</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全項目でのB評価以上</li> </ul>	A		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ホームページへの掲載だけでなく、学校評議員会で学校関係者評価への協力を依頼している。</li> <li>• 学校関係者評価の用紙を見やすいように文字を拡大したり、記入してほしい箇所を白抜きにしたりしている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学校へも訪問しやすい雰囲気である。</li> </ul>							
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 鼓笛隊の取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 中央地域まつりや一之江ふるさと祭りへの参加</li> <li>• 校内での鼓笛隊発表の機会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 6年生児童の自己評価肯定的意見80%以上</li> </ul>	A		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 中央地域まつりでは、多くの児童が満足感を得ていた。2学期も取り組みを続ける。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 鼓笛隊は短い期間での練習だったが、立派だった。</li> <li>• 地域とは防災訓練等で、十分な連携を図っている。</li> <li>• 今後は違った形で実施できることを考えていきたい。</li> </ul>							
教育の特色ある展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;俳句作り&gt;</li> <li>• 豊かな感性と表現力の伸長</li> <li>• 日本文化理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 校内及び地域施設への掲示</li> <li>• 各種コンクールへの参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 季節ごとに全児童による取り組み</li> </ul>	B		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>• コンクールの参加は各クラスで取組意欲に差はあるものの、俳句に自主的に取り組む児童は昨年より多く、関心の高まりが見られる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 継続的に実施され、作品の掲示・掲載により、子供たちの創作意欲が向上される。</li> <li>• 豊かな人間性の形成に貢献している。</li> <li>• 学校でも特に力を入れているので引き続き継続してほしい。</li> </ul>							
	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;カブトムシ小屋&gt;</li> <li>• 環境教育(ESD)・SDG'sの推進</li> <li>• 生き物を大切にしている心身の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• カブトムシの飼育・観察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 3年生児童の飼育・観察活動に対する自己評価肯定的意見80%以上</li> </ul>	B		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>• カブトムシの飼育では、児童は育成に意欲的であったが、育成が難しくほとんど成虫になることはなかった。一人一匹の飼育は3年生の児童にとって難しい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>• P.T.Aとの連携もあり、小屋の整備状況も良好で、生物に対する子供たちの心育成に大きく貢献している。</li> <li>• 生き物の大切さや成長過程を学べる大変素晴らしい取組なので、今後も継続してほしい。</li> </ul>							